

暴力排撃を訴える

新日窒従業員が大会

暴力を否定し新日窒水俣工場を守るための従業員大会は四日午後六時半から市公会堂で鬼塚義定、五島登夫両市議（革新系）らが発起人となり、同工場従業員に一般市民をまじえた約千五百人が集まって開いた。

まず鬼塚氏は「水俣病対策経過報告とその後の見通し」と題してこんどの漁民の行動は政治的なにおいがすることなど、五島氏は「暴力では水俣病は解決しない」と題し漁民の行動を否定、これを市民に強く訴えることなどをそれぞれ力説した。

このあと同工場人事課多賀武雄氏は「被害者として訴える」同肥料課長村越典雄氏は「工場を暴力から守ろう」と題しそれぞれ聴衆に訴えた。このあと県漁連、知事、工場の三者あてにつきの議決を行ない、六日代表から決議文を手交することを決め、同八時四十分散会した。

▽県漁連あて ①暴力行為を反省しこんどくり返さないこと ②問題解決は平和的な話し合いで。

▽工場長あて ①水俣病原因究明については関係機関と協力してやること ②浄化装置の早期完成

に努力すること ③県漁連の統制ある平和的な話し合いに誠意をもつて応ずること。

▽知事あて ①暴力行為を断固取締まれ ②不幸にして再び同ような事態が起る恐れのあるときは工場を生活基盤としている従業

員の生命財産を守るため、また工場施設の破壊を防ぐため万全を期してもらいたい。